

令和 3（2021）年度マダイ瀬戸内海中・西部系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 3（2021）年度マダイ瀬戸内海中・西部系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 4 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 3（2021）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2021-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、SB_{msy} で 5,706 トン。
- ・ 限界管理基準値は、SB_{min} で 3,606 トン。
- ・ 禁漁水準は、SB_{0.1msy} で 222 トン
- ・ なお、最近年（2020 年）の本系群の親魚量は 5,093 トンである。

調整係数 β

- ・ 今後の加入が過去に見られた平均的な強度で発生するとした場合には、 β が 0.9 以下の漁獲管理規則を用いれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 60%の確率で上回ると推定された。
- ・ したがって、 β の値は 0.9 以下にすることが望ましい。

その他

- ・ 本系群の再生産関係としては、自己相関を考慮したリッカー型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用したデータは、令和 3（2021）年度の本系群の資源評価でコホート解析により推定された 1977～2020 年の加入量および親魚量である。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SB_{msy}）で期待される漁獲量（MSY）は 2,805 トン。
- ・ 再生産関係のモデルによって評価結果が大きく異なることには注意が必要である。
- ・ 種苗放流の体制が今後大きく変化することがあれば管理目標の達成確率などにも影響が生じることが想定される。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。